

## 社会福祉法人 白寿会 令和3年度（2021年度）事業報告

### 【法人本部】

#### 1. 本部事業報告

2021年度も継続し、新型コロナウイルス感染症対策を重視した運営となりました。2月に特養でクラスターが発生しましたが、早期のワクチン接種や日常的な感染対策の効果もあり、拡大は最小限にとどめることができました。

職員確保については、2020年度同様、見学や体験が実施できない状況にあり、WEBを活用しての説明会およびインターンシップ、動画を活用した情報提供を活発に行いました。面接についても、対面を基本としつつ、WEB面接を実施いたしました。

2020年度からはじめた「SUT（Skill Up Target）制度」という当会独自の研修制度が2年目となり、経験豊富な介護職員が12チームに分かれて法人全体研修をそれぞれ企画実施する新たなスキルアップのチャレンジが進められました。「人に教えることこそ最良の学びになる」という考え方のもと、各チームで試行錯誤がなされ、非常に有意義な取り組みになりました。今後も継続してまいります。

### 【施設部】

#### 2. 特別養護老人ホーム白寿苑

2021年度の特別養護老人ホーム白寿苑におきましては、入所者平均年齢は88.6歳、平均要介護度は4.1、平均在所期間は51ヵ月であります。

医療機関への入院者実人数は46名。死亡退所者数は24名、医療依存度が高く療養上の理由から帰苑困難となった退所者は3名となりました。

高齢者虐待によるやむを得ない措置入所は1件の受け入れを行いました。

特養として注力し取り組んでいる看取り介護については、死亡退所者全体の71%となりました。

虐待保護の措置入所ケースや、いっそう高まる看取り介護のニーズに応じていくため、各職種のスタッフ一人ひとりのスキルを高める取り組みを強化し、「利用者のために」との基本理念、介護理念に掲げる「いっしょに過ごす暮らし」から入所者、ご家族からの安心と信頼して頂けるサービスを提供できるよう、積極的に取り組んで参ります。

2020年2月より新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して参りましたが、オミクロン株による感染拡大期の本年2月に入所者10名、職員7名が罹患する施設内クラスターが発生しました。重症化リスクの高い入所者5名は医

療機関に入院しましたが、5名は施設内療養となりました。感染拡大防止対策の効果もあってか、発生フロアは限定されたため全館閉鎖には至らずに済み、また幸いにも全員が重症化することなく軽快されております。

今後も感染症対策を十分に徹底し、新規入所を進め稼働向上に努めて参ります。

### 3. 短期入所生活介護

2021年度は前年度につづく新型コロナウイルス感染症による利用抑制が働き、稼働が大きく低下しました。2月には特別養護老人ホームにおけるコロナ感染者発生によって発生フロアの長期間閉鎖にとどまらず、感染症罹患のリスクから、発生フロア以外の利用者も利用を控える事態となりました。

月平均稼働率は58%、最高は9月度の70%でした。昨年度より平均稼働率は8%ダウンしました。

利用者全体に占める中重度利用者（要介護3以上）の割合は、平均70%となりました。

大阪市認知症等高齢者緊急ショートステイ事業居室確保業務を引き続き受託し、7件の緊急受け入れを行いました。

引き続き感染症対策には十分に注意し、稼働向上に努めてまいります。

### 4. ケアハウス白寿苑

2022年5月1日現在、入居者数29名です。平均年齢は86.3歳、要介護認定を受けている入居者は23名です（その内、要支援…8名、要介護1…6名、要介護2…7名、要介護3…1名、要介護4…1名です）。

- ① 行事、サークル活動については、新型コロナウイルス感染予防のため、全て中止しました。コーヒーのルームサービスのみ毎月実施しました。
- ② 個別の援助計画を作成し、実施しています。
- ③ 感染状況をみながら、デイサービスが休業の日曜日に入所見学者を受け入れるなど、接触を避けるようにしながら入所相談を受け付け、入所していただいています。

### 5. 白寿会診療所

#### (1) 感染対策

新型コロナウイルスのウイルス変異により、感染力が強くなった2月、施設内においてクラスターが発生しました。

これまで学んだ感染対策を徹底し対応でき、また3回目のワクチン接種も終了していたことで、それ以上の拡大は防げたと考えています。

また、南大阪病院や近隣の診療所にご協力いただき、治療薬投与を早期にできたこともあり利用者に重症化する方々はおられませんでした。

どれだけ感染対策をとっていても、今後も感染症の発症は見られると思います。発症した時に、早期対応が実施できるよう今後も研修等を継続していきます。

## (2) 多職種協働

クラスターの発症が、ケアの縮小を余儀なくされました。

こんな中でも、できることを、できるだけ実施できるよう、カンファレンスなど協力体制の維持に努めます。

## 【在宅部】

2021年度下半期における、新型コロナウイルス感染症への影響は、介護サービス事業課を中心に影響が大きく、デイサービスセンターの一時休業、有料老人ホームにおいて、入居者、職員の感染による対応などがありました。各部署協力しながら、感染対策の徹底を図り、一部感染はありましたが、拡大することなく収束へと向かい、稼働率に関しても最小限にとどめることができました。また、減益した部分は、補助金や加算等の申請を行い、補填することでサービス事業課として減益した部分はありましたが、在宅部全体では、通所介護、相談支援課のケアプラン料の増収もあり、前年度比と変わらない収益となっております。

コロナ禍において、地域活動が低下している中、感染状況に配慮し地域包括支援センターでは、啓発活動等も再開し、徐々にではありますが、地域支援を拡充させ、相談からサービス提供まで一体的な取り組みで地域貢献を果たしていきます。

## ●介護サービス事業課

### 6. デイサービスセンター白寿苑

#### ◆一般デイサービス

2021年度は1月末に新型コロナウイルス感染者が発生したため、事業所を1週間休止致しました。その結果、数日から数か月間、利用控えされる方々の影響もありましたが、「感染症又は、災害の発生を理由とする加算」等を取らせて頂き、前年度収益の98%に止めることができました。そして休業期間中には、利用者のADLが低下される方もあり、利用者・家族に対しても事業を止めてはいけないと痛感致しました。

取り組みの内容としてはソーシャルディスタンス等の感染防止策を行いながら、利用者にご満足頂けるようなレクリエーションを提供させて頂きました。

次年度も、個別機能訓練や厚生労働省へのデータ提出（L I F E）等を行い、更なるサービス向上と増収に繋げる事ができるように取り組んでいきます。

介護サービス費請求額（利用者負担額含む）

	通所介護	介護予防型 通所サービス	短時間型 通所サービス
2020年度	¥57,355,898	¥2,123,800	¥189,640
2021年度	¥56,798,368	¥1,642,889	¥2,662
差額	-¥557,530	-¥480,911	-¥186,978
合計	-¥1,225,419		

◆デイサービスほかほか

デイサービスと同様に事業所を休止した影響を受け、「感染症又は、災害の発生を理由とする加算」等を取得させて頂き、前年度収益の95%となりました。

そして、今年度の地域運営推進会議もコロナ禍のため、電話連絡での対応になりましたが、地域代表者様と取り組みを共有し、貴重なご意見を頂くことができました。寺子屋教室ではICTを活用し、利用者個々にあった内容を提供することができました。引き続き次年度も感染症に注意しながら、新規利用者を獲得し増収に繋げることができるように取り組んでいきます。

介護サービス費請求額（利用者負担額含む）

	認知症対応型通所介護	介護予防認知症対応型 通所介護
2020年度	¥31,875,294	¥0
2021年度	¥30,139,262	¥55,989
差額	-¥1,736,032	+¥55,989
合計	-¥1,680,043	

7. ヘルパーステーション白寿苑

昨年と同様、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら要支援者のライフラインとして感染対策を徹底して緊張感を持続しながらの日常生活支援の活動を行いました。

高齢者の人数が増えており、介護サービスの需要が増え介護ニーズが増え続ける中、全国の居宅介護支援事業所が減少しているようです。

訪問介護事業が抱えている介護者不足の課題は、介護報酬の低さが起因しています。市や府などのアンケートや地域活動部会などで介護報酬の単価アップなど事業所支援を手厚くしてもらえるように引き続き訴えていきます。

#### ◆介護保険サービス

月平均利用者数は 25.3 人です。

月平均訪問回数は 264 回です。

要介護者と要支援者は 8 対 2 の割合で昨年よりも要支援者が増えています。

身体・身体生活活動が 80%。生活が 20%でした。

死亡や入所などの中止ケースが 9 件で新規ケースが 4 件ありました。

#### ◆障害者総合支援法サービス

転居、入所などの中止ケース3件、新規依頼6件(受け入れ出来ず)ありました。

障害別	身体障害	知的障害	精神障害	重度障害	視覚障害
割合	25%	24%	46%	1%	4%

支援内容は以下の通りです。

まん延防止期間中は移動支援は中止しております。

支援内容	身体介護	家事援助	通院介助 身体伴う	通院介助 伴わない	同行援護 視覚障害	移動支援	重度訪問
割合	15%	28%	17%	1%	19%	10%	10%

## 8. 有料老人ホームつむぎ苑

2021 年度の実績といたしましては、平均稼働率は 79.1%、前年度の 86.3%と比較し非常に低調な結果となり、収益では前年度より 500 万円の減収となりました。コロナ禍による影響は深刻で、一昨年の下半期から入居問い合わせ件数が激減し、それと比例するように稼働率は低下しております。これまで、年間平均稼働率 9 割維持を目標に利用者の獲得を目指しておりましたが、今後も続くコロナ禍において、新規入居者の獲得のためには、これまでと同様の広報活動、地域関係機関との連携だけでは目標の達成は難しいと実感した一年でした。

一方、非効率な業務内容の改善、適正化に合わせ、職場環境の改善を多角的に行ってまいりました。その成果として、人材の定着に関し、ある一定の成果は出たのではないかと考えております。高い継続雇用の維持を専門性の高い職員を育てる地盤とし、利用者の多様なニーズに応えることのできる強い人材、強い施

設作りに一層努めてまいりたいと考えております。

		総額	介護サービス費	自費サービス
請求額	2020年度	¥112,475,757	¥59,833,703	¥106,964
	2021年度	¥107,193,235	¥57,418,107	¥110,110

## ●相談支援課

### 9. 玉出地域包括支援センター

#### ◆地域支援事業

地域の医療・介護のネットワーク構築や認知症施策に関する会議体は感染状況に応じ、書面やオンラインと参集を組み合わせたハイブリッド形式などで開催しました。

#### ・玉出地域包括支援センター実績

総合相談件数 7975 件（昨年 7421 件）、権利擁護虐待対応実件数 4 件

介護支援専門員支援からの相談 1203 件（昨年 1033 件）

はつらつサークル（独自事業）・書道サークルを緊急事態宣言、蔓延防止措置法発令時を除き、3 部制、人数を制限して再開。

相談件数増は、コロナ禍による高齢者の活動全体の低下、不活発による重度化も要因として大きく、また生活課題が複雑に入り組んだ事例も増えています。実人数も昨年度に比べて 100 件ほど増加しており一人の利用者にあたり支援期間が長くなるという特徴が見えます。

#### ・認知症強化型地域包括支援センター実績

区内地域包括支援センター地域ケア会議後方支援・・・ 9 件

認知症推進代表者会議、実務者会議・・・合計 10 回

認知症対応力向上研修 1 回（ハイブリッド研修 1 回）

認知症啓発講演会は、2 年ぶりに地域住民向けに開催。動画作成と上映地域の社会資源を紹介する相談ブースなど、生活支援体制整備事業との協力を得ながら、周知活動を行うことができました。

#### ◆介護予防支援事業

介護予防サービスは、利用者総数 5636 件（昨年度 6267 件）、地域包括支援センター延べ実績 478 件（昨年度 499 件）、一部委託 5158 件（昨年 5768 件）で対応しています。

昨年度に引き続き、「コロナ禍だからこそ考えるケアマネジメント」をテーマに利用者、支援者向けのメンタルヘルスに関する勉強会や、年度末には生活支援コーディネーターと理学療法士を外部助言者に迎え、長くコロナ禍において意欲低下やメンタルヘルスへの影響が出ている利用者に対し、自立支援への意欲を引き出すためのアプローチについて意見交換を行いました。

## 10. 認知症初期集中支援推進事業（にしなりオレンジチーム）

### （1）相談実績数

2021年度の個別支援件数29件、一方相談対応数は110件あり、両者を合わせると139件に対応致しました。単身独居で複数の生活課題を持つ世帯が多い萩之茶屋地域で個別支援件数が伸びています。2021年度も2020年度に続き、チーム支援対象と推進員支援対象を振り分け、職務に当たりました。

個別支援件数は月平均2.4件で、2020年度を約1件下回りました。2度の緊急事態宣言による影響は個別支援にもありましたが、相談対応数は2020年度以降増加傾向です。個別支援件数に入る前段階での実態把握に繋がっています。

### （2）広報啓発活動

コロナ禍の影響を受けながらも、関係機関を中心に46回実施しました。認知症に関する相談機関であるとの認識は年々広まっています。ホームページやインターネット検索からの相談も少しずつ増加傾向です。

新型コロナによる影響が少しずつ緩和されつつあった期間に、地域の百歳体操やいきいき元気教室へ広報活動を行いました。

専門職への広報活動では、各種相談やケース支援を通じて行うことが多くなっています。すぐに支援介入は必要ないが、事前に相談をしておきたい、アドバイスがほしいといった相談が増加傾向にあります。

### （3）ネットワーク構築

『ほっと！ネット西成』連絡会の事務局として、実務者級連絡会議兼関係者会議をはじめ、研修を実施し、オンライン参加者の割合が昨年度よりも増加しました。2年度分中止していた区民向けイベントも関係者と協働し実施しました。

事例を通じて、認知症に関する専門的なアセスメント、医師の説明に基づいた支援の方向性に関する助言・提言もこれまで同様に行っております。

## 11. ライフサポートセンター白寿苑

特定事業所加算を取得しているため、引き続き適切なケアマネジメント業務と適正な運営を行っています。ケアマネジャー質向上においても、2021年度は集合形式ではなくオンラインが主であり、それぞれの個人目標に添って研修などに参加しています。次年度も日々のケアマネジメントを疎かにせず運営基準

違反や減算にならないよう運営指導を行って参ります。

「感染対策」や「災害対策」の BCP 作成と実践の取り組みが求められています。特に感染対策については利用者、事業所の中で感染対応を実践経験したことから、それらを BCP 内に落とし込み次に繋げていけるように考えていきます。

今回、地域の居宅介護支援事業所との初の試みを行っています。みんなの居場所をお借りして地域のケアマネジャーと介護保険、制度、地域の情報を共有しながら肩の凝らない勉強会を開催しています。他事業所のケアマネジャーからも好評で 2022 年度も継続して行っていきます。引き続き地域の居宅介護支援事業所と連携を図りながら利用者、地域、社会資源に向けて情報発信をしていけるように企画していきます。

事業所の運営について、新規利用者獲得について 2021 年度、要介護者 35 件、予防 3 件で病院や地域利用者からの相談件数が主です。

収益については 2021 年 23,092,176 円（2020 年度 21,492,271）対前年度比 100.4%となっています。年明け以降、入院、施設入所、逝去等ケースが減少しています。今後も引き続き新規獲得により収益につなげていきます。

## 1 2. 相談支援事業はなめ

### (1) 事業内容について

2021 年度も相談員 1 名体制（兼務）で稼働しました。「精神障がい者支援体制加算」は、計画通り 2021 年 4 月より算定しています。入退院者が多く「評価加算」算定件数は増加しています。しかし、前年同様に障害サービス事業所の感染予防対策の関係で訪問することができず、サービス提供時モニタリング加算件数を伸ばすことができませんでした。

高齢者サービスとの共生を目指す取り組みとしては、「あいサポート研修」を周知、相談支援課職員 5 名が受講しています。

### (2) 実績について

利用登録者数は、月平均 40.8 名です。請求件数は月平均 31.6 名と前年度より約 3 名増加しています。「利用者の状況確認や支援内容の調整等を手厚く実施したことを評価する為の加算」は 56 件と大幅に増加していますが、約半数は入退院時の加算です。収益は前年度の 117.3 パーセントとなっております。

新規登録件数は、6 件のうち 3 件はサービス事業所や医療機関等からの依頼です。地域関係機関との連携強化に取り組んだ結果と評価しています。引き続き会議や行事に参加し地域関係機関との連携強化を図ってまいります。

【白寿会研修センター】



### 13. 喀痰吸引等研修事業

当事業は、2013年度より開始し、近隣地域の社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会、特別養護老人ホーム山愛の三者が協働して実施しておりますが、2021年度については新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、不開催といたしました。

なお、これまで11回開催し、基本研修参加者が計216名、そのうち全課程修了者が197名、基本研修修了後実地研修受講中が7名（2022年3月末現在）となっています。